

再発見 ふるさと風土記 上新城の伝説 シリーズ

⑦「恐れ淵の盗賊」前編

1 人を呑み込む「恐れ淵」

今から600年も昔の話だ。新城川の上流に、落合という所がある。ここは、右から流れてきた白山川と、左から流れてきた小又川が落ち合う所だから、落合と言われている。

二つの川が一緒になったこの辺りは、両面に山が険しくそびえていて深い谷間になっていた。勢いよく谷間を下る川は大きな渦を巻いて、青く深い淵をつくって流れていた。

急流の川べりには、やっと人が一人、通れるだけの、細い小さな道があるのだが、もしも足を踏み外そうものなら、たちまち底なしの淵に巻き込まれて命を失う。そんなことから村人たちは、ここはおっかない所だから「恐れ淵」と呼んで怖がっていた。

ある年の事、この落合に一人の髭面の盗賊が棲みついた。盗賊は、この落合を通る人たちからお金を奪うようになった。旅人も村人たちも、これにはまったく困果て、なんとか退治してくれないかと頼んで回った。だが、この悪者はとてつもなく大男で力も強い。

2 棲みついた盗賊

腕に覚えのある侍たちが、入れかわり立ちかわり立ち向かって、まったく歯が立たない。いくら切りつけても、ビクともしない。しまいにはこちらがケガを負わされて、逃げて帰るのがやっとだった。

どうしてこんなに盗賊が強かったのか。それは、その体に秘密が隠されていたのだ。盗賊は身の丈が2メートルもある大きな体で、その全身に硬い鋼鉄の鎧を肌着のように張り付けていたのだ。これでは刃が立たないのも無理がない。人々はすっかりあきらめてしまい、もう生きていく望みさえなくしていた。

郷土史研究家 永田 賢之助



上新城のペット物語



vol.7

みさきちゃん

みさきちゃん13歳、女の子。可愛がっていたワンコが亡くなって2カ月ほど経った頃、どうしようもなく寂しくて、御所野のイオンに出掛けました。「ペットショップに入ったら、引き寄せられるように目が合ったんだ。その瞬間からこの子がずっと私を見て目を離さないんだよ」と渡邊さんが話してくれました。

名前の由来を聞いてみました。「最初、私がハナでどうかと言うと、長女が『それはおかしい、女の子だからハナだなんて』と反対したんだよ。ちょうど竜飛岬に遊びに行こうと計画していたところだったので、『それじゃ、みさきにしよう』と娘の意見で決まったんだよ。

「今は元気だけど大病で2回手術したんだよ。雷が大嫌い、怖がって私のところに飛び込んでくるよ。大好きなのはドライブだね。車の中でいっぱいおしゃべりするよ」と嬉しそうに渡邊さんが話してくれました。

散歩でも必ず道の右側を歩き、真ん中を歩いたりしません。大人しそうに見えますが、猟犬の証か、立派な番犬として地域でも評判のようです。健康のため、バランスを考えながら一日三食。大好きなお父さんと毎日幸せに過ごしているみさきちゃんです。

みさきちゃんのお父さんは、五十丁字小林的 渡邊金悦さん(五十丁字小林)

私のメモリー

道川油田の思い出

私が生まれた1940年頃には、道川の雷、宮ノ下、深田山根のあたりには油田がありました。帝国石油の事務所があり、社宅が25軒ほど建っていたのを覚えています。父親が帝石に勤めており、社宅の真ん中に自宅がありました。私が小学校1年生の頃になると油の産出量が減り出し、後に帝石が引き上げることになりましたが、当時の道川は大変栄えていたように思います。

その頃一般家庭には風呂がなく、帝石が無料開放していた社宅の共同風呂を町内の人たちも使うことができました。鉄板の風呂で、浴槽は4~5人が入れる大きなものでした。帝石では毎年龍神を祀った祭りもやっていました。後に神社も解体されましたが、面倒見が良かった父親が祠を持ち帰り、今は自宅で祀っています。

思い出といえば、町内の盆踊りです。疲れた頃に出てくる美味しい漬物、大きなおひつに入った大量のおにぎりは忘れられません。帝石と町内の親交も深く、帝石が年に2~3回上映する映画を観に行ったり、年末には鉱業所で餅つきをしたりもしました。

今でも気候の変動などで自然に油が出ることがあります。4~5年前、元社宅に住んでいた方々が訪ねてきて、当時について語り合ったことも良い思い出になっています。

道川町内 古木 知也





Oct. 23 さとぴあ講座レポート サツマイモ(紅はるか)の収穫体験

10月23日(土)、松木台農場で「サツマイモの収穫体験」講座が行われました。6月に植付作業を行った参加者たちによる収穫作業でしたが、集合時は生憎の雨で、ほ場そばのテントで待機することになりました。作業開始の時刻になっても雨が治まらず、小降りになってきたところで「サツマイモの掘り起こし作業に取り掛かりましょう!」と強行作業に入りました。

長靴の足がとられるような「どろんこ」状態でしたが、まず最初にスコップで畝を掘り起こしていきましました。次にサツマイモを手で引き抜くと大きいのと小さいのが一緒に根っこに付いて顔を見せてくれました。子どもたちが嬉しそうに「うわーッ」と言いながら次々に掘り出していきましました。土まみれのサツマイモをコンテナに入れていくと、あっという間に満杯になりました。土がついたまま根っこからハサミで切り離し、コンテナから溢れるほどいっぱいになったサツマイモを「よいしょ!」と気合を入れ洗い場に運びました。



水で洗うと、お店でお馴染みのあの「紅いサツマイモ」が洗い場に勢ぞろいしました。「紅(べに)はるか」という品種で、この時期に穫れる旬のものです。収穫したサツマイモは参加者14人に均等に選別配分することになりました。

作業が終わり一息ついた際に、燻製小屋で準備していたスタッフから「焼き芋ができていますよ～熱い焼き芋を食べてくださ～い」と呼ばれました。小降りの雨の中で強行した収穫体験でしたが、テントの中でみんな満足そうに焼き芋を頬張りました。「おいしいね～」と笑顔があふれて体験講座が無事終了となりました。ご苦労様でした!

溢れるほどいっぱいサツマイモ



ピースする程の美味しさ!



雨の中お疲れ様でした! /

参加者の言葉

「楽しかった!またやりたい!」「サツマイモがいっぱい獲れたよ～」
「焼き芋が熱くておいしかった!」「畑で作業するのが楽しいですね」
「自分で植えて収穫した“特別なサツマイモ”ですね」

紅はるかの特徴

見た目が優れ、蒸した時の糖度が高いです。食べ始めは強い甘さを感じますが、後口はすっきりした上品な甘さになります。果肉の色は黄白色、口当たりはやや粉質で、加熱するとしっとりとした食感になります。焼いた時の甘さは安納芋とも比較されるほど非常に甘く、美味しい焼き芋の資質をそなえています。

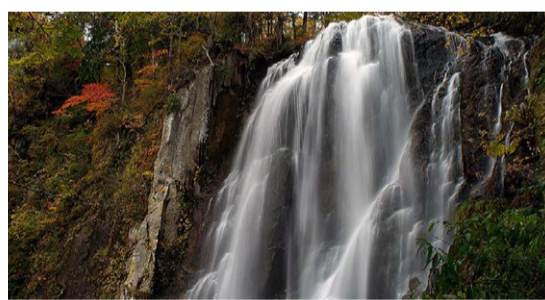


佐藤 俊正 “美しき自然”写真展 Beautiful nature

秋田の滝、風景などを撮り続ける写真家「佐藤俊正」の作品、33点を展示します。

日時 令和5年 11月30日(木)まで 10:00～18:00 場所 さとぴあ 玄関展示ホール

自由
観覧



特別講話「撮影から画像編集」と滝の動画映会を開催します。

日時 11月19日(日) 10:30～12:00

参加
無料

※お申し込みは「さとぴあ」まで

多目的ホール・研修室の貸し出しを行っております



多目的ホール(旧体育館)
1時間につき 400円(税込)

使用例 バスケット・バドミントン・ソフトテニス
ドローンの操縦・各種トレーニングなど

研修室1(旧音楽室) 1時間につき130円(税込)

使用例 サークル・楽器演奏・研修・書類づくりなど

研修室2(旧家庭科室) 1時間につき160円(税込)

使用例 料理教室・郷土料理作りなど

研修室3(旧技術室) 1時間につき200円(税込)

使用例 創作活動・研修・明読会など

研修室4(旧理科室) 1時間につき160円(税込)

使用例 草木染め・陶芸など



暖房設備(研修室1～4)
1時間につき+90円(税込)

使用可能な器具についてはお問い合わせください。

11月の講座一覧

11/2 木
毛糸の草木染めプロジェクト
第5回「毛糸を編む」

11/8 水
伊達巻とおこわづくり

11/12 日
キムチ漬けと
冬野菜を使った料理

11/12 日
樹のかたちを活かした
カッティングボードづくり

11/16 木
シニア料理講座
常備菜に最適な塩豚づくり

11/23 木
フレッシュグリーンの
クリスマスリースづくり

11/24 金
ノルマンディー地方の
料理とお菓子づくり

11/26 日
そば打ち講座

「上新城さとぴあだより・ふるさと瓦版」は、上新城地区の瓦版です。次号の配布は、12月9日・10日の予定です。地区の皆さんにお知らせしたい情報がありましたら、「さとぴあ」までお寄せください。

